

## MEMO

- 2011/1/9 ガンカモー斉調査、4グループ、14名参加。
- 1/18 市生活環境課へ出向く〈横田(敬)、渡辺〉  
「市水道局の豊田浄水貯水池で発生した、鳥インフルエンザA型」についての情報交換。
- 1/22 こおりやま(支部)新年会 33名参加。
- 2/19 第1回決算役員会開催(於 学習館)  
◇平成22年度の実績と来季計画を検討する。
- 3/27 臨時運営委員会(於 学習館)

### 報告

日野鳥発第69号 11/1/7付

「内閣府における支部名称の扱い方針について(報告)」(事務局)

(要旨)

- ◇内閣府公益認定等委員会事務局より「支部」名称を名乗ることについての扱いを変更する旨が1月5日付公表された。
- ◇(内容) これまで法人各を異にする団体は、支部を名乗ること(当会の場合「日本野鳥の会××支部」)は否とするものでした。然るに、今後は法人格を異にしている不正目的での名称使用に該当しないことが確認できるのであれば、支部(「日本野鳥の会××支部」)と名乗ることは可能である。
- ◇1月13日付、内閣府へのアポイントを執り、事情聴取を行い追って、報告をする旨の本部通知である。

『巣立つ少年たちへ贈る餞別、  
“カッコウ調査”の参加ありがとう』

豊かな自然のメルクマールとなる鳥として“カッコウ”が引続き郡山の環境指標に選ばれました。生息数調査を担当している、こおりやま(支部)としても一層の励みになるものと考えています。

“カッコウ”を市の鳥とした経緯については不詳乍ら、多分に、夏鳥として渡来してその爽やかな鳴声に魅せられることが第一義と考えられますが、一方“托卵鳥”ということで非とする意見に対し、むしろ地域の自然度を押し測る貴重な存在として選ばれたとする見方もあります。

“カッコウ調査”は平成二十二年度を経て十六年目の継続調査となりましたが、その間、調査の手法、対象地域などの再検証がなされてきました。それと同時に新しい切り口として進められてきたのが市内小・中・高・児童、生徒を対象にした自然へのアプローチを指向した、調査への参加を呼びかけてきたことです。教育委員会ははじめ各、学校先生方のご理解を得乍ら、各年度1万通に及ぶ“調査アンケート用紙”の配布を行い、その往復をすることが定着して参りました。

私も野鳥の会の夢は、調査への参加で育んだ“カッコウ少年”たちが身近な自然との付き合いがあったことを将来に互って思い出してくれることを念じて、調査を続けていきたいと考えています。(事務局長)